

NST 委員会「これまでの活動と今後の展望」

委員長 金沢大学附属病院 浅井 泰詞

2000 年ごろから全国の病院で少しずつ NST (Nutrition Support Team) が立ち上がり、医療現場において栄養管理の重要性が、多職種で認識され始めました。また、高齢者の増加に伴い、国は在宅医療を充実させようとする方針へ見直しが行われています。そのため、入院中にとどまらず、在宅でも栄養管理を継続して行う必要が出てきました。本委員会は平成 19 年 (2007 年) 5 月より“地域一体型 (在宅・NST) 特別委員会”として、担当主管を含めメンバー 11 名で活動を開始しました。

委員会目的は、「病院間および保険薬局と薬・薬連携を図ること。また、在宅において栄養障害をきたし再入院を繰り返さないよう栄養管理・褥瘡管理について会員とともに学んでいくこと。以上のことを石川県病院薬剤師会の一委員会として推進させていくことを目的とする。」としました。

そのため、活動内容を①薬・薬連携 と②栄養管理・褥瘡管理の 2 本立てとし、①ではまだ、それほど普及していなかったお薬手帳の啓発活動をメインに開始し、また、②では講演会や体験型研修会を行いました。委員会活動を進めていくにあたり、試行錯誤するところから始まりました。目的を大きく掲げてしまったことで、悩むことも多かった気がします。

お薬手帳の啓発活動では、保険薬局の先生方も一緒に、市民参加型でお薬相談を行いました。また、東北の大震災の時に、お薬手帳がなくて大変困ったといった事例を目の当たりにし、石巻から講師をお呼びし市民公開講座も開催しました。この時は、金沢市内の公民館をくまなく回りチラシを配布したことを思い出します。会場は文化ホールを選択し、期待に胸膨らませて市民の参加を待っていたのですが、参加は極少数名と残念な結果となりました。会場に駐車場がなかったのが大きな要因であったようです。

また、病院内での手帳の浸透具合などの調査も行い、手帳を取り入れていない病院に対しては手帳の代行発注なども行い、その活動内容について学会発表も行いました。

栄養管理については、実際に栄養剤やトロミ剤の体験や高齢者の視線にたってリハビリ体験など、講師の先生にもいろいろと工夫してもらい、参加者も楽しく学べたのではと感じています。

令和元年度より、委員会名を NST 委員会とし、その活動内容も NST に特化したものに変更しました。活動内容としては、年に 2 回 (講演会と研修会) を行うことを目標としています。これまでに、がん緩和医療と栄養管理、心不全と栄養管理、リハビリ栄養など様々なテーマで講演会や体験型の研修会を実施してきました。今後も、我々医療従事者が栄養管理の観点からどのように患者と向き合うべきかを講演会・研修会を通してお伝えするために活動を続けていきます。コロナ禍になり、体験型や対面式での研修会を実施するのが困難な状況は続いているようですが、リモートをうまく活用して活動方法を模索しながら、参加者がよかったと思える委員会活動を続けていきたいと考えています。